

新年のごあいさつ

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年中は、県協会、各郡市サッカー協会並びに各種委員会の皆様に於かれましては、コロナ禍の中、当協会の諸事業や大会運営等に多大なるご理解ご尽力をいただき、改めて厚く御礼を申し上げます。

FIFA ワールドカップカタール2022では、多くの感動を受けました。森保監督、吉田麻也キャプテン、選手、スタッフの皆様、大変お疲れ様でした。あらためてスポーツが日本の閉塞感に大きな刺激と感動をもたらし、日本列島が歓喜の渦に包まれたと感じました。

森保監督は、歴代日本代表監督の戦略をリスペクトし、その戦略と自分の戦略を選手に求めました。

日本代表も、カタールで多くの経験値を重ね、反省点とともに積み上げ、今後の糧になると思います。

ドイツに逆転勝ちした翌日の新聞の見出しは、「森保」金星は目に焼き付いております。ドイツ、スペインより勝点3の勝利は、大きな自信となったことと誇りに思います。

カタール大会では、史上初の女性審判員、山下良美審判員が「第4の審判員」として6試合を担当されました。ご自身も「精一杯やった」「これだけ（人の）心を動かせるサッカーに、より魅了された」とのコメントが印象に残りました。

カタール大会では、「試合を客観的に分析するデータが今のサッカーには欠かせない要素」の記事も多く目に留まりました。日本代表の「テクニカルスタッフ」のデータ整理が、日本代表の組織力としての躍進になったようです。

今回のW杯カタール大会での「ドーハの歓喜」は、これからの日本サッカー界を支える青少年に多くの刺激と感動を与え、明日のサッカーに繋がると確信いたしました。

日本サッカー協会は、ワールドカップ 2026 年迄、森保一監督の日本代表監督の続投を決定しました。

森保監督は「積み上げてきたことをブラッシュアップさせる。個の発掘、育成全てをレベルアップできるように選手に働きかけ、環境作りをしていきたい。」との強い決意。

誠におめでとう御座居ます。会員の皆様のご支援をお願いいたします。

令和 5 (2023) 年癸卯 (みずのとう) 年です。

「癸 (みずのと)」に「才 (手偏)」を付けると「揆 (き)」であり、物事を「はかる」「はかりごと」の意。物事の筋道を立てること。

よって万事正しく筋を通していけば繁栄に向かう。

「卯」は陽気の衝道、陽気を突き動かすとのこと。

「癸卯」は、万事筋道を立てて対応していけば繁栄に導くことが出来る。

「人、遠きを慮 (おもんばか) りなければ近き憂 (うれ) いあり」

親身になって心配し、筋道を通して良い方へ導くことが今年肝要と言われております。

組織に於いても、各チームに於いても、筋道を立て、良い陽気を活かしていただきたい。

国見高校の全国大会善戦とその全国大会での経験値はこれからのチームづくりにも、これからの長崎県のサッカーにとっても大きな糧となると確信します。

V・ファーレン長崎も、2年目のファビオカリーレ監督の下、J1 昇格を目指します。着々と地域密着型のホームタウン構想の充実を図られております。社会貢献運動にもご尽力いただいております。監督が目指すサッカーを選手・スタッフ一同が共有して頑張ってください。

結びにあたり、今年一年が“幸多き実りある年”でありますよう御祈念申し上げ新年のごあいさつとさせていただきます。

令和5(2023)年 癸卯1月9日 大安吉日
一般社団法人 長崎県サッカー協会
会長 殿村 育生